

イタリア生まれの新しいバイオスティミュラント資材



【規格】

1L

メガホル

MEGAFOL

海藻エキスと植物原料より抽出した

各種アミノ酸と輸送タンパク、ビタミン等を豊富に含む液剤です。

乾燥・高温・低温等の幅広い環境ストレスに対する植物の耐性を
高め、収量および品質の安定化が期待できます。

※本資料を当社の許諾無く、複製、第三者への開示・配布をしないようお願い申し上げます。

●有効成分

	窒素全量	水溶性加里	その他有効成分
保証成分	2.0%	6.5%	①ベタイン（プロリン、グリシン） ②低分子の各種アミノ酸（プロリン、グルタミン酸など） ③ビタミン類（B5、PP、B1、B6） ④輸送タンパク質

●性状

形状	pH(100倍液)	比重(g/cm ³)	液色
液体	6.5	1.22	茶色

●使用方法

施用方法	葉面散布
希釈倍率	500～1,000倍
使用量	原液200～300mL／10a／回
使用回数	穀類 1～2回 蔬菜類2～3回 果樹類3～4回



※農薬混用可能です。
お使いの際は、事前に少量混用試験を行い
散布に問題ないことをお確かめ下さい。

効果	使用時期・ターゲット	具体的な効果
幅広いストレスの軽減	高温、低温、干ばつ、湿害、風害、損傷害、除草剤使用時の生育停滞時	左記ストレス条件下で植物が有する自己防御反応を高める事で安定した生育を確保
生長促進	栄養生長促進	新葉の形成／展開スピードUP
肥料／農薬 植物体内での浸透移行促進	除草剤の効果を高める（新陳代謝向上）	非選択性除草剤：雑草枯凋スピードUP 選択性除草剤：雑草枯凋スピードUP／作物の生育回復効果

MEGAFOLの特徴

① グリシンベタイン、プロリンベタイン	ストレス軽減
② 低分子のアミノ酸 プロリン グルタミン酸	高温ストレス軽減 栄養生長促進、窒素代謝UP
③ 輸送タンパク 生体内で物質移動を機能するタンパク質	浸透移行性向上 全ての生物の成長に必須



トマト苗を用いたストレス付与試験

乾燥ストレス	TEST		MEGAFOL	
物理的ストレス	TEST		MEGAFOL	
高温ストレス	TEST		MEGAFOL	
低温ストレス	TEST		MEGAFOL	

MEGAFOL散布し、あらゆる環境ストレスからの回復効果を示した。

高温・早魃への耐性向上効果① 青森県馬鈴薯での試験結果2019年

Megafol3回散布後の早魃・高温耐性【青森県】



Control

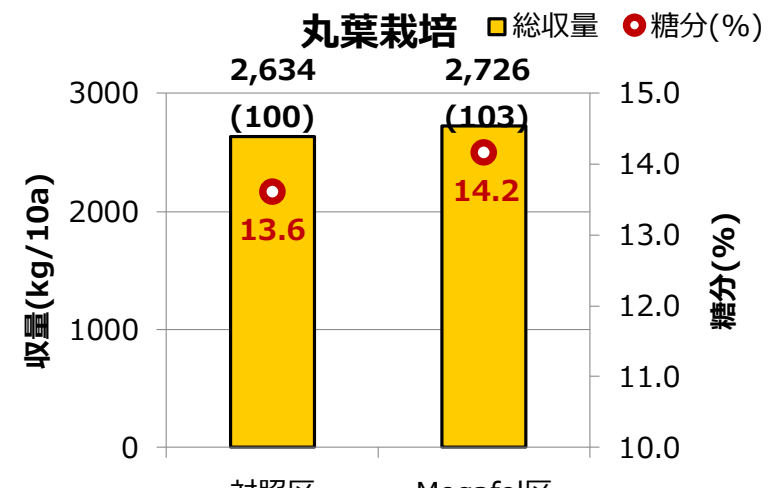
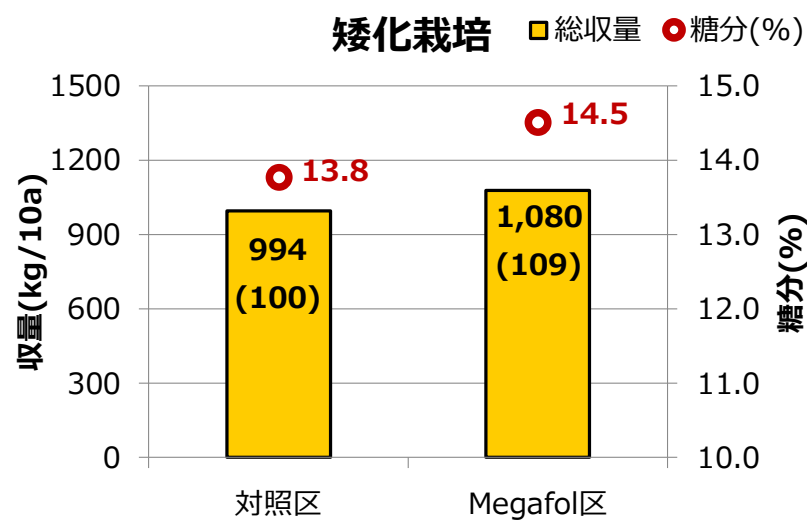
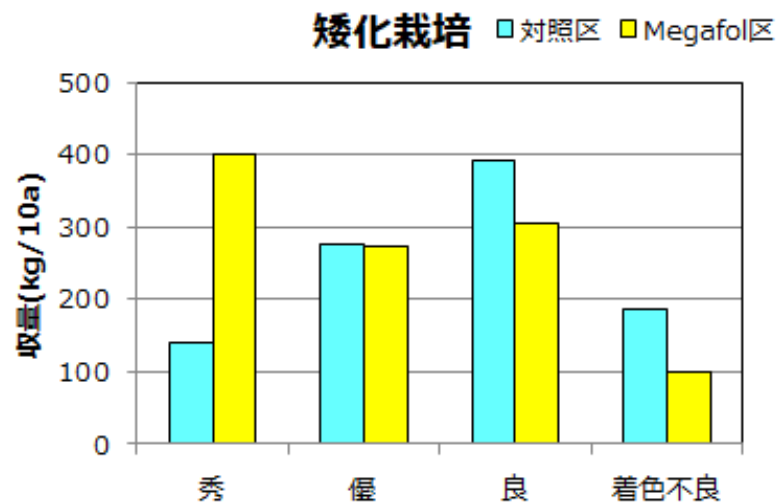
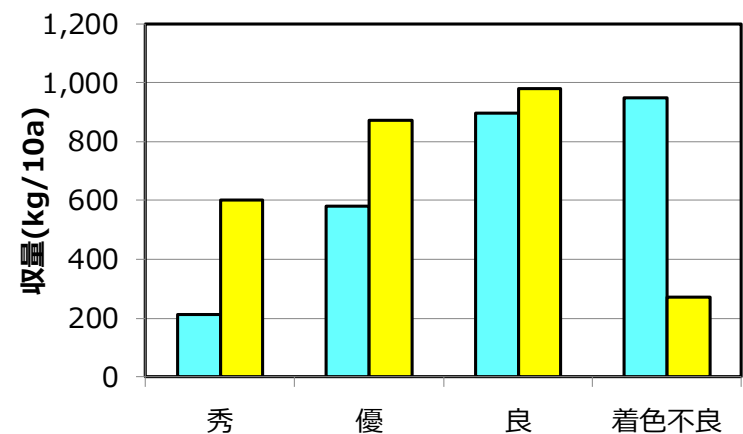


Megafol

Megafol散布有無によって、高温・早魃への耐性に明確な差が見られた。

高温・早魘への耐性向上効果 青森県りんごでの試験結果2019年

★りんご試験@青森県 4/24,5/9,5/20,6/8の4回散布
(長く早魘状態が続いた)



高温時の耐性向上効果 和歌山県温州みかんでの試験結果2019年

★みかん試験@和歌山県 6/1,7/9の2回散布(夏場高温状態が長く続いた)



樹齢	処理区	着果数(個/樹)	果径(mm)	果重(g/個)	収量(kg/樹)	糖度(Brix)	酸度(%)	糖酸比
樹齢10年	対照	425	56.8	85.4	36.3	11.0	1.4	8.0
	Megafol	529	59.0	93.9	49.7	11.7	1.6	7.6
	Aminocat-Plus	360	67.1	132.8	47.8	10.4	1.2	8.5
樹齢20年	対照	—	61.7	102.3	—	9.0	0.9	10.4
	Megafol	—	56.8	80.3	—	10.9	1.5	7.5
	Aminocat-Plus	—	86.8	89.1	—	9.9	1.6	6.2

(備考) 糖度はAtago社のPAL-1、酸度の指標としてクエン酸濃度はPAL-29S(果汁を50倍希釈し測定)を用いて測定

除草剤効果増幅① 2019年試験結果

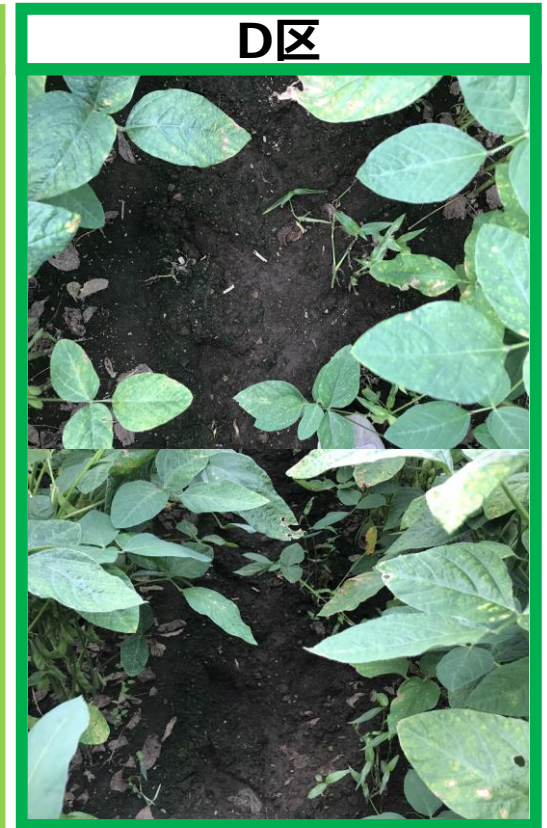
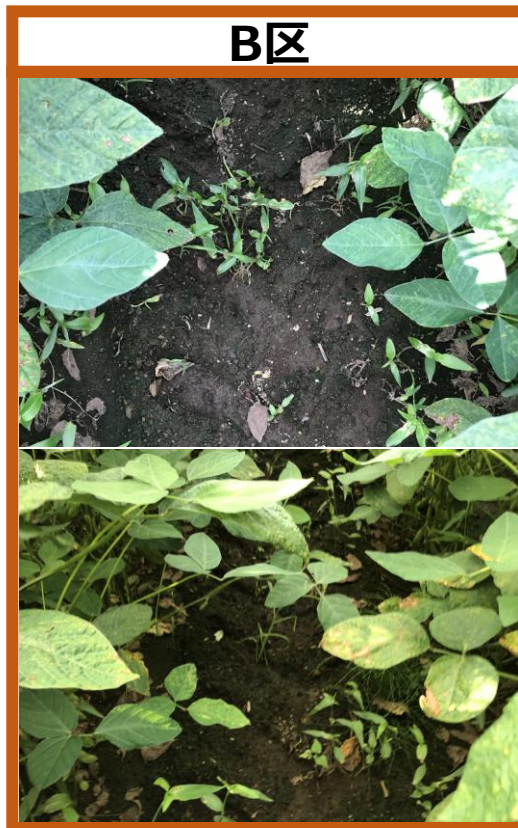
Confidential

圃場での散布試験事例@北海道

対象雑草：ツユクサ

※処理日：8/2 経過観察：8/18

薬剤名	種類	薬量/10a	A区	B区	C区	D区
大豆バサグラン	選択性除草剤	150ml	○	○	—	—
大豆パワーガイザー	選択性除草剤	200ml	—	—	○	○
Megafof	バイオスティミュラント	200ml	—	○	—	○



除草剤効果増幅② 大豆 試験事例2020年

Confidential

使用地	品目	
北海道	要確認	
銘柄名	施用日	施用量(10a)
MegafoI	6/18	200ml
散布方法		
選択性除草剤混用葉面散布		

- ① 対照区 = 選択性除草剤単剤散布。MF区 = 混用散布区。
- ② 対照区はツユクサ・アカザ等発生率3割程に対し、MF区はツユクサの発生無く、アカザが数点のみと混用効果が有る。



※MFは幅広い環境ストレスに効果を発揮するバイオスティミュラント液肥です。浸透移行は高めますが農薬効果は有りません。